

胃とピロリ菌について

山岸内科医院 院長
山岸 隆文 先生

ピロリ菌は人間の胃の中にすんでいる細菌です。

ピロリ菌は約 3 マイクロメートルのらせん状の細菌で、数本の鞭毛を持ち、この鞭毛を回転させて活発に動き回り、人の胃の粘膜の表面や細胞の間に入り込んで炎症を起こします。

日本では、40 歳以上の人は戦後の衛生状態が悪い時代に生まれ育ったため、70～80%の人が感染しています。衛生状態の良い環境に育った 30 歳代以下の人は感染率は低くなっています。

ピロリ菌は主に口から感染しますが、感染経路ははっきりしません。しかし、感染は免疫能力が不完全な幼少期に起こり、成人は感染する機会はほとんどないと考えられています。

ピロリ菌に感染すると必ず潰瘍になるわけではありませんが、ピロリ菌感染者のうち 2～3%の人が潰瘍になります。また、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の人のうち約 80～95%がピロリ菌に感染しており、ピロリ菌は潰瘍の大きな原因の一つです。

また、胃がん患者はピロリ菌の感染率が高く、胃がんの発生にピロリ菌が関わっているのではないかと考えられており、最近では除菌に胃がん予防効果があることがより確実になったため、数年前に日本ヘリコバクター学会が診療のガイドラインで「感染者全員の除菌を強く勧める」とされました。

また、胃がんを起こす危険性を高めるものに「ピロリ菌感染+高血糖」「ピロリ菌感染+喫煙」「ピロリ菌感染+薬+塩分の取り過ぎ」が最新の研究で三つ明らかになっています。

除菌治療が勧められる代表的な病気は胃潰瘍・十二指腸潰瘍ですが、高血糖の人、喫煙している人、塩分取り過ぎの人にはピロリ菌の検査、除菌を勧めます。ピロリ菌の検査は、内視鏡検査や内視鏡検査を使わない検査があり簡便に検査することができます。

ピロリ菌の治療は胃酸を抑える薬と 2 種類の抗生物質を 7 日間内服で除菌治療を行います。詳しくは、かかりつけ医と相談の上治療を行ってください。